

# リハビリテーション科学特別研究

[実習] 第1～3学年 通年 必修 6単位

《担当者名》各研究分野の指導教員

## 【概要】

科学的根拠に基づいたリハビリテーションサービス提供の質を保証するため、今日的課題と今後の方向を展望しながら、リハビリテーション科学の推進、サービスの効果的介入並びに有効な組織・管理、施策づくりに寄与するための研究課題を設定し、研究計画を立案し、研究活動の展開、博士論文の作成を行う。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	生体構造機能・病態解析学分野	筋による運動制御の観点と、関節包・靭帯による運動制御の観点よりヒト運動器の基本的構造と機能を探求する研究指導をおこなう。	調整中
	生体構造機能・病態解析学分野	バイオメカニクスをはじめとする運動科学的手法を用いて、ヒトの身体運動・動作の特性やその発現機序に関する研究指導を行う。	小島悟
	生体構造機能・病態解析学分野	人体の構造と運動機能について、肉眼解剖学的手法ならびに画像診断装置や電気生理学的手法を用いて観察および測定を行い、得られた結果を考察し、リハビリテーションの科学的根拠を高める上で重要な機能解剖学とそれらに関わる分野に関する研究指導を行う。	高橋尚明
	生体構造機能・病態解析学分野	生化学や神経生理学、および分子生物学的手法を用いて、筋骨格系を中心とする身体組織の可塑性や適応変化のメカニズム解明に関する研究指導を行う。	山口明彦
	生体構造機能・病態解析学分野	分子生物学、生化学および薬理学的手法を用い、胚性幹細胞（ES細胞）から聴神経や内耳有毛細胞を産生する分子メカニズムを明らかにする。この成果を、感音難聴に対する再生治療の基盤技術の確立と臨床応用に関する研究開発へと進める。	下村敦司
	生体構造機能・病態解析学分野	先天異常疾患の機序解明に向けて、遺伝学的、またはエピジェネティック的分子機構を、分子生物学的手法を用いて解明する。	太田 亨
	リハビリテーション治療学分野	人口構造の変化、循環器疾患発症の若年化および生活環境の変化を背景に増加する内部障害に対して、予防医学を視野に入れながら、基礎的あるいは臨床的研究課題を探求する。	調整中
	リハビリテーション治療学分野	中枢神経疾患などによる運動障害に対する新たなリハビリテーション的介入方法の開発に向けた基礎研究、実際の症例への介入研究といった課題の研究指導を行う。	吉田 晋
	リハビリテーション治療学分野	高次脳機能障害の各症状を、神経心理学的手法を用いて研究する。特に行為・動作の障害について詳細な分析を行う。	中川賀嗣
	リハビリテーション治療学分野	失語症および高次脳機能障害に関する症状、評価法、病巣、障害メカニズムの解析、リハビリテーションに関する研究指導を行う。	田村 至
	リハビリテーション治療学分野	精神障害者に対する作業療法および関連領域における実践や精神科リハビリテーションに関する課題の研究指導を行う。	浅野雅子
	リハビリテーション治療学分野	さまざまな神経心理学的症状に関して、その発現機序、支援法を研究する。特に症状（行動）から認知機能、そして脳機能（神経基盤）の理解へとつなげて考察できるように研究指導を行う。	橋本竜作

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	地域健康生活支援学分野	地域在住障害者に対する日常の営みとしての作業や社会参加を促進するためのニーズとその実現を目指す支援のあり方に関する研究指導を行う。	鎌田樹寛 本家寿洋
	地域健康生活支援学分野	積雪寒冷地に生活する高齢者の生活支援に関する論文作成について、研究計画から論文作成に至る研究指導を行う。	鈴木英樹

**【授業実施形態】**

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【備考】**

各研究分野の中から研究内容を選択し、指導教員の研究指導を受けながら研究を実践し、博士論文にまとめる。

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

本科目の内容は、保健・医療・福祉の分野において、リハビリテーション科学に関する高度な学識と研究能力を修得し、リハビリテーション科学の発展を通して社会に貢献できるというリハビリテーション科学専攻博士後期課程のディプロマ・ポリシーに適合している。